

介護老人保健施設ライフサポートねりま

症例概要 利用者:70代後半 性別:女性 介護度:要介護2

病名:脳梗塞後遺症

利用サービス: 入所

経過: 令和3年5月～令和3年11月

令和2年11月に老健より自宅退所され、令和3年4月、発熱により自宅療養中に廃用症候群となり、筋力低下、パーキンソン症候群から歩行状態不安定となり、ライフサポートねりまに入所となる。

内 容

当施設より、自宅退所され、今回2回目の入所となり、リピーター利用者の症例。

入所当初は、頸部、腰背部に動作時疼痛があり起居動作困難、歩行はキャスター付き歩行器を使用。ADL全般に介助を要する状態でした。

担当PTとして、まずは疼痛軽減を第一優先とし、頸部を中心とした筋緊張緩和の為にアライメント修正を積極的に行いました。また、居室にこもりがちだったため、時間を見つけては訪問し臥床時のポジショニング修正や、レクリエーション活動の参加を促しました。

介入開始より、3週間後徐々に疼痛は緩和し、積極的な歩行訓練へと移行。

うつむき、前を見ることも困難だった状態から、顔を上げることが出来るようになり、生活にも変化があり、笑顔が増え、幸せな時間を過ごすことが出来るようになりました。

歩行訓練や棟内の自主トレーニングを見た職員達から「顔があがるようになりましたね」、「上手に歩けていますね」など明るく、前向きになれるような言葉かけをする事でやる気を引き出せ、疼痛の訴えは聞かれ無くなり、ADL修正自立、T字歩行となりました。

「入所してリハビリをする事で、本当に歩けるようになって家に帰れるから。この施設の事を知り合いにも紹介するからね」と満面の笑みで職員皆に感謝の言葉を伝え、11月にご自宅へ退所。また、3か月にリピーターとして入所したいと希望されています。

老健の限られた介入時間で、チームリハビリテーションケアにより、ADL低下の要因に対し、一つ一つ

丁寧にアプローチする大切さ、そして何よりご本人のやる気を引き出し、気持ちに寄り添うことで笑顔を引き出し生活をより豊かなものに出来、ご本人の望む在宅退所支援をする事ができた症例であった。